



あいかんきょう



2011/10/20

会報・第109号



「鈴鹿の山とコスモス」(COP10開催記念 愛環協写真コンテスト応募作品)

提供：川村 春代 氏

撮影場所：三重県桑名市

鈴鹿の山々を背景にコスモスが一面に咲き誇り、
風に揺られていました。

四季折々

朝晩、めっきり涼しくなり、見上げれば青く澄んだ空が秋を感じさせてくれる▼東日本大震災から半年後の九月、台風十二号・十五号が日本列島を襲った。ゆっくりとした動きで、長時間激しい雨を降らせ、土砂災害や河川の氾濫など甚大な被害をもたらした。被害にあわれた皆様方には心よりお見舞いを申し上げます▼まったくの想定外と言ってしまうばそれまでだが、このように自然の災害はいつ牙をむくか分からない。まさか、自分の家は大丈夫だろう。川の水位もそこまでは上がらないだろう。いままでは大丈夫だったから：など、私たちの心の中にある安心、物事に関する軽視、自分の中の警戒レベルを見直す必要がある気がする▼昨年の秋、我が家は太陽光発電を取り入れ、僅かではあるが、省エネ・CO2削減に努めている▼設置して以来、毎日の発電量を確認するのが帰宅後の日課となり、発電量以外にも使用電力も確認ができ、節電を心掛けるきっかけにもなった▼この夏は、特に節電に心がけたが、思うように発電効率が伸びず苦戦を強いられた。今、効率がアップする本格的な秋が訪れ、帰宅後の楽しみの一つになった。

東日本大震災現地視察・調査報告

(社)愛知県環境測定分析協会
災害緊急時対応・対外交渉委員会

一はじめに

当協会は、平成二十三年三月十八日に愛知県と「災害時における化学物質等の調査に関する協定書」を締結し、これに伴い当協会において、七月五日に災害緊急時対応委員会を立ち上げました。

当委員会では、その具体的対応を検討することを目的として、東日本大震災にみまわれた計量証明事業所を視察することを計画し、今回、(社)日本環境測定分析協会東北支部の東北緑化環境保全(株)様をはじめ、北日本環境整備(株)、(財)宮城県公衆衛生協会様のご厚意により平成二十三年七月十九日(火)に現地(図1位置関係図参照)視察を行うことができましたので、その様子についてご報告します。

視察の参加者は濱地会長をはじめ、災害緊急時対応委員の合計九名が参加しました。当日のスケジュールは①東北緑化環境保全(株)測定分析事業部(宮城県多賀城市桜木)の視察を行い、昼食をはさんで②オーク仙台ビル地下大会議室にて、三社の方から聞き取

り調査を実施しました。



(図1 位置関係図)



移動中の車中から

二東北緑化環境保全(株) 測定分析事業部視察

仙台到着後の移動は東北緑化環境保全(株)様の案内により、多賀城市桜木の測定分析事業部まで移動しました。

震災当日は、宮城県沖地震に備えて毎年避難訓練を行っていたため地震発生直後の屋外への避難・安否確認は比較的スムーズに行えたそうですが、後の大津波警報発令に対する高台への避難は交通渋滞発生のためスムーズに行かなかつたようです。結果的には個々の判断で車を捨てて徒歩で避難、渋滞を回避して社屋まで戻った等の行動により社員全員難を逃れることができました。ただし社屋に戻った社員は津波が引く翌日の昼まで建屋内で孤立してしまいました。ちなみに津波は約一五〇cmまで達し、社有車十三台のうち七台が流されてしまつたそうです。

なお、地震に伴い設備等が転倒して実験室の扉が開かなくなり外部から救出するといふ事態が生じましたが、地震の襲来に備えてあらかじめ対策としてドアにガラス窓を設置していたことから、実験室の外側から人の存在を確認で

きたので大事に至りませんでした。このことに鑑み、窓を割って外へ逃げ出すことができるように現在ガラスを割る道具(車載用の緊急用品)等の準備を進めているそうです。



震災当時の測定分析事業部



震災当時津波が引いた後の1階事務室



津波の襲来



訪問時の測定分析事業部

次に東北緑化環境保全(株)後藤課長様の説明を受けながら視察した被害状況の概要を簡条書きで報告します。

①HR・GCM・S・ICP・MS・ICPなどの大型の装置はコンクリートの床にアンカーで固定していたため、三月十一日の本震(横揺れ)時には致命的な被害は少なかったが、四月七日の余震では、震源地が近く、本震とは異なる大きな揺れ方であったためアンカーが破損し、本震時よりも大きな被害を受けた。なお、LC・MMSはキャスター付の実験台に載せてベルトで床にアンカー固定していたため、本震時・余震時とも無事であり、対策としては最も効果があったことから、他の装置も同様の対策を行う予定。



無事だったLC - MSMS



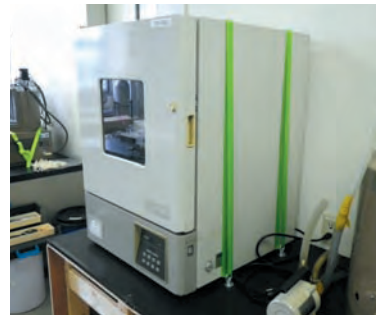
訪問時のHR - GCMS



震災当時のHR - GCMS

④実験室内の履き物は全てスニーカーにしている。以前はスリッパでも良かったが、以前の地震による教訓から数年前に改めた。このことにより、ガラス器具が破損し、床に散

③試薬類は試薬棚（地震対策済み）に入れていたものは無事だったが、実験台に置いていた試薬は破損した。また、ガラス器具類は、収納棚保管のものや使用中で中に水を入れケースに立てていたものは無事だったが、空のものはほぼ破損し、引き出しに保管していたものも破損したものがあつた。



ベルトで固定された乾燥器

②実験台に設置していた機器類は耐震ゴム及びベルトで固定していたため、GCなどの箱物はほぼ無事であつたが、ICのようにパーツが積み重なつた装置は落下してしまつた。



震災当時の状況

⑦測定分析事業部を襲つた津波は約一五〇cm程の高さがあり、その影響により七日目、十日目くらいでサビが発生してきた。

⑤一階事務所は津波の影響により、水没した状態になつた。特にデータサーバーはバックアップ用のものも一階に設置していたため、データは失われた。但し、メンテナンスを行うためにバックアップデータがあつたため、二月までのデータは復活した。また、試料保管庫も水没した状態になり、現在でもカビ臭がする。

⑥建屋は外壁タイルが数枚落下しただけであつたが、地盤沈下があり、現在においても沈下は進行している様子。また、建屋と除害設備の間は六十cm〜七十cm程陥没した。

③社内や帰宅のための避難経路を常日頃から確認しておく必要がある。

①通信手段について、固定電話よりもIP電話の方がつながりやすかつた。また、地域内ではなく他府県経由の方がつながりやすかつた。

②携帯電話は発信制限等で通信ができない状況になることや、通信できる状態の時にメールが一斉に受信されバッテリー上がりが発生しやすかつた。そのため、携帯電話に依存しない方法を検討する必要がある。

三聞き取り調査
会議は東北緑化環境保全(株)から後藤部長様、後藤課長様、本田専任課長様、北日本環境整備(株)から大崎次長様、(財)宮城県公衆衛生協会から熱海参与様の三社五名より、オーク仙台ビル地下大会議室にて聞き取り調査を行いました。

今後の参考となる事項を簡条書きで報告します。



訪問時の状況

⑧毎年二回程度防災訓練を実施していたため、地震発生後の避難と安否確認は比較的にスムーズに行えたことから、防災訓練を実施した方がよい。

⑨業務は一つの事業所で集中せず、できることなら分散させておいた方がよい。

なお、視察報告を十一月四日(金)の環境計量士等研修会の中で行います。詳細をお知りになりたい方は是非ご参加ください。

④安否確認のため、グループの長は社員の携帯電話等の番号やメールアドレスを把握しておいた方がよい。

⑤燃料(ガソリンなど)の補給が困難になるため、車のガソリンは常に満タン(又は備蓄)にしておいた方がよい。

⑥津波の襲来が想定される地域では、防災用品を常備し、特にデータサーバーを浸水しない場所へ設置する。この場合、バックアップするサーバーは別の場所に設置する。

⑦停電に備えて懐中電灯、ラジオ、乾電池を準備する。また、帰宅困難者用として災害レスキューキットを準備しておくといい。

◆◆ 会員からの投稿記事 ◆◆

職員有志とその家族による

「大平宿キャンプ」報告

(株)愛研

技術部 大屋 渡

私ども愛研がどのような会社であるかを説明しようとする、家族的な雰囲気の違いが特徴として挙げられます。それは、かつてはさらに濃厚であつたらしく、スキー旅行や山菜採りなど、さまざまな企画が開かれていました。その中でも重要な企画として開かれていたのが、夏の時期に職員とその家族が泊り掛けで遊びに行くという「大平宿キャンプ」でした。時代の流れの中でもう十年以上途絶えていましたが、実務リーダーとしても極めて多忙な日々を過ごす二名の社員が尽力して、このたび七月十六日から十七日にかけて復活開催となったものを報告させていただきます。

「大平宿」は江戸時代中期に開かれた宿場町で、明治時代には小学校も置かれるなど栄えましたが、時代の変化に伴い、昭和四十五年に住民の集団移住により無住の里とな

り、現在は「いろいろの里 大平宿」として保存され自給生活の場として一般にも利用することができます場所となっています。「大平宿キャンプ」は皆で自然の中での自給生活を楽しまう、という企画ですが、だからこそ、普通の旅館での宿泊旅行とは違って、資材の準備や買出しから全てが楽しい旅行の一部でした。たとえば買出しでは主婦の皆さんの知恵で食材費を圧縮する一方で子供たちにお菓子を選ばせたら予算を大きくオーバーしてみたりとか、そういうえば、会社にそれだけ充実した鍋その他の生活するための道具（チタまで！）が備わっていると、私自身も会社の伝統というか底力を実感することになりました。



古民家の庭先でバーベキュー
街道沿いの水路は冷蔵庫兼遊び場

さて、二歳の幼児から大人までの多様なメンバーから成る、六家族プラス個人六人の総勢二十五人+犬一匹は、大平宿近くの大平峠民家の森の青空の下でお弁当を食べて腹ごしらえをしたあと、山のような荷物を大平宿の二つの民家に運び込んで、早速夕方からのバーベキューの準備にかかりました。民家の中に釜炊きのためのかまどはありますが、外でバーベキューをするためには、かまどから自分達で作らなくてはなりません。誰が仕切るわけでもなく、それぞれが自分の出来ることを率先してやりながら、お互いに声をかけあって準備が進みます。子供たちは民家の前の水路に「ダム」を作ってスイカや飲み物などを冷やせるようにしたあと、早くも水遊び



近くを流れる川にて
もっと時間を取りたい魅力的な川でした

バーベキューのための30cm以上にもなる超ぜいたくな串が女性陣の皆さんのノウハウによって手早く準備された頃には、会社から持ち込んだこれまた巨大な金網や鉄板を載せたかまどには火がついて、早速バーベキューが始まりました。良く晴れた夏の午後、水遊びをしていた子供たちはあれよあれよと焼きたての肉を次々と胃の中に収め、大人は火の前に、あるいは食材の前に格闘しながら巨大なクーラーボックス（実は業務用）に冷やされたビールや缶チューハイをあおるのでお酒はあつという間になくなってしまい、再び買い出しに行くやら夕方までは「現場」はもう大変な状況になっていました。



16日夜5合・17日朝10合
・屋20合と大活躍のお釜

民家にあつた大きなお釜を使って薪で炊いたご飯も子供たちには大好評で、子供たちの食欲と大人の酒欲がようやくひと段落した夕方頃には、持参したスモーカーで味深い

鳥賊のトロトロ燻製やら子供たちが絶賛つまみ食い大会になったソーセージ燻製を作った古参社員や、水路で「ガサガサ」をやつてアマゴを見事が光り、お風呂の薪ボイラーを黙々と沸かし続けた中堅社員のおかげで子供たちは冷えてきました。こうして参加者の皆が、誰に言われるまでもなく、自らのできること、得意なことを持ち寄ると、こんなに楽しい自給生活が実現するということに私は会社の魅力を再発見したような思いがしました。今回こういった自給生活そのものの経験が少ないと言っていた新人社員も、元氣いっぱいの子供たちの面倒を良く見てくれただけでなく、焚き火の起こし方といった様々なノウハウも学んでいたの、きつとこの流れを受け継いでいってくれることでしょう。



夜もエンドレス
子供たちにも大好評だった焼きそば作成

また、今回の旅行には、自給生活そのものだけでなく、初日の夜の花火や、二日目午前中の川遊び、二日目昼からのスイカ割りなど、子供たちの喜ぶイベントも用意されていました。しかし子供たちというのは本当に不思議なもので、そんなイベントが始まる前から本当にあつという間に打ち解けていたので、イベントは「もっとやりたい」という声に押されて大変でした(あ、調査会社ですから川では測定もしましたよ。気温二十五・七℃/水温十六・五℃ですから名古屋よりは七℃程度低くやはり別世界、pH六・七六でECに至っては現地測定値で木曾川中流の十分の一、持ち帰りの測定値で十五 μ S/cm、比較した会社の水道水が六十二 μ S/cmでしたから、いかに清流かがわかります)。

そうして楽しかった二日間があつという間に過ぎ去り、寝袋で雑魚寝という状況によく寝付けなかった人もいたようです。道中で「あららぎ温泉」にも入りつつ、全員が無事帰ってくるのができました(ただ、人によっては酷く虫刺されの被害を受けていました。虫除けは必須のよう

です)。子供たちは会社の最後の片付けの場面でも別れ難く、次に会える日をとても心待ちにしているようで、家族参加企画はやはり格別なものがありました。こうして改めて思い出深い企画となった「大平宿キャンプ」、また皆でや

研修会聴講記

初級統計研修会に参加して

(社)愛知県薬剤師会

衛生試験部 井上 美奈

りたいという感想多数で開きとなりました。長年に渡って維持管理されていらっしゃる「大平宿をのこす会」の関係者のご努力に感謝しつつ、我々も日々の仕事を頑張ることにしましょう。

私は大学生の頃、統計処理について講義を受けたことはありましたが、それ以来あまり実践する機会がなく、業務上で必要となる際に迅速に対応できるような状況ではありませんでした。しかし、データの統計処理という作業は分析化学を行う上では必須となるため、今回この研修に参加することで、改めて統計処理について数値の扱い方やExcel関数の使い方も含め、再度確認をさせていただく良い機会となりました。

とができました。ただ、『③統計量の分布から母集団の特性を調べてみよう』という最後の講義では検定や推定と分散分析といったいくつかのパターン分けされる計算式を必要とし、テキストにざっと目を通しただけでは、内容はとっつきにくく難しいものを感じてしまいました。しかし、どの講義においても単にスクリーンの映像を見て耳で話を聴くだけではなく、さらに実際にその場で各自がPCを用いて例題を用いてExcel関数を学び、さらに演習問題を解くことにより、一つずつ自身で確認しながらわからな

いところは講師の方々が個別で丁寧に説明してくださり、スムーズに内容を把握していくことができ、大変充実感のある研修でした。



中堅実務者研修会に参加して
(財)東海技術センター
調査技術部 中野 準也
私は分析業界で働き始めてから今まで、調査技術部に属しており、研修以前は分析の知識はほとんどありませんでした。

しかし、今回の研修は分析の知識がない自分にとっても非常に実りのあるものでした。その理由の一つ目は、分析の誤差より試料採取の誤差のほうが分析精度に与える影響が大きく、試料採取が分析の精度を左右することが理解できたことです。

二つ目は、統計から不確かさの算出まで、分析精度の管理方法を実際に演習し体験することで、分析値の正確性に多少なりとも疑問を持つことができるようになったことです。この研修以前は、分析値は機械が算出したただの値と思っていました。その認識が大きく変わりました。

この研修をおして学んだ上記二つのことは、これから業務を行う上で、試料採取方法の改善や分析者に分析値の管理方法を確認するなど、調査部門と分析部門が一体となって分析精度を高めていくことに生かしたいと思えます。

測定機 紹介

中日コプロ株式会社

水質検査室 傍島 志帆

《会社概要》

当社は昭和三十三年に清掃業を主とする中日クリーナー工業株式会社として名古屋市中村区に創業しました。昭和五十一年に本社を名古屋千種区に移転し、平成十年四月には、創立四十周年を機に中日コプロ株式会社へ社名を変更しました。



本社は

社名の「コプロ」とは社是である「協力(COLLABORATION)」と「進歩 (PROGRESS)」からなる合成造語です。地球と共に、お客様と共に、より良い都市環境を目指して進んでいく私達の確固たる姿勢を表しています。

平成二十二年に創立五十周年を向かえることができ、現在は東京・豊田等に支店があり

従業員数六百名を抱えるまでに成長することができました。

《業務内容》

当社の業務内容は、メンテナンス業務（オフィスビルや工場・大型施設等の清掃管理・緑地管理・施設管理・衛生管理）、サービス業務（社員食堂等のフードサービス・リネンサービス）、工事業務（給排水管の管更生工事・公共施設維持管理・上下水道敷設工事・コンクリート造成物防食工事・外壁改修・営繕・リフォーム・造園工事）の三部門に分かれますが、三つの業務が互いに連携し積極的に情報交換や技術交流を図ることで様々なニーズに柔軟にお応えできる維持管理体制を整えています。

メンテナンス業の一つである清掃管理では、名古屋市鳴海にある営業所に併設するビルクリーニングトレーニングセンターを活用し、清掃の技術を高めるため定期技術研修会や外部の技術者を招いての教育などで技術を高めています。

また、全国で開催されるビルクリーニング競技会に毎年

参加しており、過去に全国大会で優勝した従業員も在籍しております。今年も愛知県大会・中部北陸大会を勝ち抜いた社員が十月に行われる全国大会に出場します。



ビルクリーニング競技会

皆様の会社で、当社の全国レベルの清掃技術を試してみませんか？

当社のこうした業務内容の中で、私が所属する水質検査室は、衛生管理部門に属し、主な業務内容は、水質分析（特定建築物等の飲料水・井水・プール水・浴槽水・工場排水等の水質検査）、空気環境測定（オフィスビル・学校等）になります。業務内容が他の測定機と比較すると小規模ですが、少数精鋭で試料の採取から、検査業務、結果報告までを行っています。検査業務においては、手分析、機器分析に拘わらず、お互いにフ

ローができる様、それぞれの検査を行う必要があり、各自の適切な判断、知識が重要になります。また、業務全体を見て臨機応変に対応し、各自が責任を持って正確で精度の良い分析が行えるよう精進しています。

私は、ガスクロマトグラフ等の機器分析を行うようになり、最初の頃は、一人で操作することで精一杯でした。しかし、最近では、試料の前処理や機器を正しく操作し検査するだけでなく、分析機器の構造を理解し、日常点検での機器の状態、異常の有無の確認や記録から、大きなトラブルを未然に防ぐ大切さを痛感しています。また、機器にトラブルが生じたときには、メーカーの技術の方にお願する前に、ある程度は自分たちで原因を突き止めることが出来るよう積極的に講習会等に参加して勉強しています。

また、お客様と接する機会も増え、お客様の質問や検査結果の内容を法律の定義的な解説だけでなく、どんなお客様でも理解し納得して頂ける説明するように心掛けています。

少人数という事をデメリットに考えるのではなく、今後もし小回りが効く事や、コミュニケーションの取り易さ等のメリットを検査業務に十分に活かせる体制を整えと共に、日々、個人の意識、技術向上の努力を惜しまず、全体の精度管理の向上を目指し、お客様から信頼され満足していただけの一丸となり頑張っていきたいと思えます。

【新入会員の紹介】

・正会員

(有)アイ・エス・エー

代表取締役 伊佐 秀幸

名古屋市長区野末町七〇二号

TEL:〇五二・六二二・三四〇二

FAX:〇五二・六二二・三三九九

・賛助会員

松田産業(株)

代表取締役 松田 芳明

環境事業部名古屋営業所

豊明市新田町大割三二一

TEL:〇五六・二・九〇五・二二一一

FAX:〇五六・二・九〇五・二二一一



機器室

〇〇 委員会等活動報告 〇〇

総務委員会

委員長 河野 達郎

第三回委員会を九月二十七日に開催しました。

議題は、新規会員の入会について、正会員一社の申込みがあり、推薦者等必要書類及び面談を行い、また、賛助会員一社の申込みがあり、必要書類の確認を行い、それぞれの入会を理事会に上程しました。

企画委員会

委員長 柴田 金作

第二回委員会を九月二十七日に開催しました。今年度の四つのテーマについて検討をし、愛環協パンフレットの直しについてとISO17025への各社取り組みに関するアンケート調査についての二テーマの進捗状況を話し合いました。

また、他の二テーマについては他委員会と進め方を今後調整することになりました。

七月八日に「初級統計研修会」(化学分析におけるデータの統計処理)をウイールあいちにて開催しました。参加者は、実際にパソコンを操作しながら技術者にとって欠かせない統計処理を学びました。

九月十五・十六日には、ウイールあいちにて中堅実務者研

修会を開催し、統計講義(応用編)を中心に参加者は長時間の研修を真剣に受講しました。

また十一月四日には、環境計量士等研修会を予定しております。多数のご参加をお願いします。

八月二十四日に委員会を開催し、広報誌第一〇九号の掲載記事について協議しました。

また、ホームページのリニューアルについて、広報と関連することから、そのあり方について意見をまとめ担当委員会に報告しました。

委員 長尾 隆宏

水質・土壌ワーキング

第一回共同実験を模擬環境水(汽水)中のカドミウム、セレンを対象として、参加機

関五十二社(県内三十六社、県外十六社)で実施しました。実験結果はZスコア法を用いて現在解析中で、中間報告をホームページに掲載すると共に、十二月には結果検討会を開催する予定です。

委員 長 西脇 光正

八月二十四日に委員会を開催し、広報誌第一〇九号の掲載記事について協議しました。

また、ホームページのリニューアルについて、広報と関連することから、そのあり方について意見をまとめ担当委員会に報告しました。

委員 長 宇野 孝

九月九日に委員会を開催し、先般七月十九日に実施した東日本大震災の現地視察調査結果を受け、機械設備の転倒・破損防止対策、データ管理のあり方、安否確認の方法、避難訓練の重要性、同業界での協力体制など現状の課題や対策について論議しました。

今回の視察で得た情報は、非常に有効なものであったことに加え、現地へ足を運ぶことで感じた危機感の醸成は今後の対応を図るうえで大変有意義なものとなりました。

委員 長 金田 哲夫

第三回委員会は八月三十日に開催し、更新作業については七月二十九日に実施しまし

り、試料を参加機関に配布し測定してもらった後、結果検討会で臭気強度の伝達講習及び臭気強度に関わる実習を検討しています。

委員 長 宇野 孝

九月九日に委員会を開催し、先般七月十九日に実施した東日本大震災の現地視察調査結果を受け、機械設備の転倒・破損防止対策、データ管理のあり方、安否確認の方法、避難訓練の重要性、同業界での協力体制など現状の課題や対策について論議しました。

今回の視察で得た情報は、非常に有効なものであったことに加え、現地へ足を運ぶことで感じた危機感の醸成は今後の対応を図るうえで大変有意義なものとなりました。

委員 長 金田 哲夫

第三回委員会は八月三十日に開催し、更新作業については七月二十九日に実施しまし

た。

委員会では一般社団法人化に向けてのホームページの内容やあり方について検討を行いました。トップページに協会の事業内容の説明を付ける事等、レイアウトについて年内に考案する事になりました。

資料保管庫については関連の大きい技術委員会・教育研修委員会との意見交換を行い、今後の資料保管の為の資料のあり方について双方委員会で検討を行う事になりました。

委員 長 鎌田 務

小野寺委員がまとめた「東日本大震災現地視察・調査報告書」について、内容確認を行い正式な報告書として協会に報告しました。

また、委員(ブロック長)が各ブロック会議の場で視察報告を行うこととし、内容はブロック長の判断としました。

委員 長 金田 哲夫

第三回委員会は八月三十日に開催し、更新作業については七月二十九日に実施しまし

た。

委員会では一般社団法人化に向けてのホームページの内容やあり方について検討を行いました。トップページに協会の事業内容の説明を付ける事等、レイアウトについて年内に考案する事になりました。

資料保管庫については関連の大きい技術委員会・教育研修委員会との意見交換を行い、今後の資料保管の為の資料のあり方について双方委員会で検討を行う事になりました。



ブロック会議報告

第一ブロック

ブロック長 宇野 孝

第一回の会議は九月十三日に、九社十二名の参加で行い、はじめに今年度の協会の行事予定を紹介し、続いて新たに設けられた「災害緊急時対応委員会」についての説明を行いました。

この委員会の活動として、東日本大震災の現地視察を行なったことから、地震と津波による被災状況や防災に関する教訓などを披露したところ、

海に近い事業所が多い第一ブロックの皆さんには大変興味深く聴いていただくことが出来ました。

最後に、濱地会長からアスベスト飛散防止総合対策に関する情報をいただき、会議を終えました。

会議終了後は、有志による恒例の懇親会を行いました。

第二ブロック

ブロック長 鎌田 務

会議は九月七日に、十一社十一名の参加で行い、はじめに一、二回目の理事会の概要について報告をし、新設委員会「災害時緊急対応委員会」に

ついては、愛知県と結ばれた「災害時における化学物質等の調査に関する協定書」の対応を進める為、新たにブロック長を委員とする委員会を新設し、(委員長は鎌田務理事)東日本大震災の現状視察を計画、実行した内容を説明するとともに、現地視察状況を説明し、参加者からの質問を受けました。

会議終了後、昼食を取りながら、放射能測定など、最近の業界の話題について情報交換を行いました。

第三ブロック

ブロック長 柴田 金作

会議は九月二十日に、五社五名の参加で行い、内容は①理事会報告(事業報告・各委員報告)②東日本大震災現地視察報告(七月十九日に現地視察をした報告)を行いました。

会議終了後の懇親会は、集中豪雨のため延期となりました。

第四ブロック

ブロック長 豊田 豪

会議は九月三十日に六社七名の参加で行いました。今回は台風十五号の影響により開

催日を順延したため参加者が少なくなってしまう、出席できなくなったメンバーには大変申し訳なく思っております。内容は、①理事会の報告②災害緊急時対応委員会設置③東日本大震災現地視察についての報告を行いました。

特に東日本大震災現地視察の報告では参加者から大変活発な質疑をいただき定刻を過ぎても議論が終わらないほどでした。

会議終了後は第三ブロックと合同で懇親会を行い、いつもとは違ったメンバーが揃い大変有意義な情報交換を行うことができました。

第五ブロック

ブロック長 大野 哲

会議は九月十四日に豊橋市商工会議所にて、十六社二十名の参加で開催しました。

事業経過、各会員の近況報告を行い、今年発足した災害緊急時対応委員会の委員として東日本大震災の被災地を訪問した私より視察報告及び三月に締結した災害時における化学物質等の調査に関する協

定について説明しました。会議終了後、懇親会を開催し親睦を深めました。

編集後記

表紙の写真にあるように、秋を代表する花、コスモスが可憐に風に揺れ、通る人の眼を惹きつけてくれる。紅葉した木々は、訪れた人の心を癒してくれる。栗・梨・柿等の秋の実りは、豊かさを味あわせてくれ、一年で一番過ごしやすいい季節を迎えている。

しかし今年は、まったりと秋を満喫する気になれない現実がある。普段であれば何も気にせず美味しく食する秋の味覚(収穫物)を今年は放射性物質の影響を不安に感じながら食したり、

場合によっては産地をみて購入する消費者も少なくない。食材への不安感が完全にぬぐえるのは何時になるのだろうか。

事務局からのお知らせ

環境計量士等研修会

十一月四日(金) ウイルあいち

第一回共同実験結果検討会

十二月六日(火) ウイルあいち

騒音・振動(低周波)勉強会

一月二十四日(火) ウイルあいち

皆様の参加を

宜しくお願いいたします。

一方では、震災被災地の一刻も早い復旧・復興が望まれるが、十兆円とも二十兆円とも言われる莫大な復興資金の財源をどこに求めるのか。今年度、国の借金が一千兆円を突破するのは確実とも言われており、このままでは借金という内臓脂肪によって、日本がメタボになる。無駄を省き、徹底的な行政改革に取り組むことが今の政府にできるのか。「がんばろう日本!」と叫びたい心境だ。

紅葉した木々はやがて葉を散らし冬を迎える。無意味な消耗を避けて冬眠する生き物たち。自然界の生物である人間にもいき詰まったら冬眠する能力があったら嬉しいだろうなとふと考えてしまう。

発行人 (社)愛知県環境測定分析協会
会長 濱地 光男
〒460-0022
名古屋市中区金山1-2-4
アイディエリア405号
TEL・FAX 052-321-3803
E-mail aikankyo@nifty.com
編集 (社)愛知県環境測定分析協会
広報委員会